

挑戦の大切さを学ぶ

昭和42年卒四二会

昭和42年卒の同期会・四二会の今年度例会が9月5日、秋田市の協働大町ビルで開かれた。出席者は県内外から72人。女性陣も4人元気な姿を見せた。

まずは全員で集合写真をバチリ。物故者に黙とうを捧げた後、校歌を全5番まで歌いきった。大久保正樹会長の開会挨拶に続き、米シヤトル在住の辻純一君の発声で地元秋田の日本酒で乾杯、懇親会に移った。アルコールのメーターが上がるにつれ、会場には談笑の輪が幾つもできて話の花が咲き、あつという間の3時間が過ぎた。

最後に高知市から夫妻で駆けつけた千葉徹君が登壇。14年前に脳出血で倒れ左半身の自由を失ったが、2年前から障害者の水泳教室に通うようになり、周囲の励ましに支えられて今年5月、高知県障害者水泳大会に参加した経験を語った。そして25メートルと50メートルに挑戦した結果、ともに金メダルを取ることができたと報告があると、会場から大きな歓声が上がリ拍手が鳴りやまなかった。

挑戦することの大切さをみんなでかみしめながら来年の再会を約束して散会した。(石井 仁 記)



プレ還暦同期会を開催

昭和51年卒同期会

8月15日、再来年の還暦同期会に一人でも多くの参加者を得ようとプレ還暦同期会を開催した。当日は第10回となる51の会ゴルフコンペを秋田カントリー倶楽部で開催し、20人がプレーを楽しんだ。

秋田キャッスルホテルで開催した同期会には74人が参加、菅原実君の司会でまず太平洋戦争の犠牲者に黙とうを捧げた。猿田五知夫代表の挨拶、滝田互応援団員のリードによる校歌斉唱・エールと続き、乾杯の後、テーブルスピーチに移行した。酔いが回ってからは和気藹々の懇親を深め、中締めの後、2次会、3次会へと流れ、秋田の活性化に少しでも貢献して再来年夏の再会を誓い散会した。(福岡 健 記)



汽車通時代を懐かしむ

昭和29年卒奥羽線上りの会

9月10日、大仙市大曲の大曲エンパイアホテルを会場に、昭和29年卒(秋高80期)奥羽線上りの会が開かれた。これは、当時の国鉄四ツ小屋駅より先からの汽車通学、下宿など、いわゆる県南出身者、または県南に勤務などで在住したことのある者を対象とした同期会で、今年で6回目を数えた。

対象者は78人を数えるが、物故者が20数人、現在は毎回15~20人の出席がある。今回は17人、汽車通時代の思い出はいつも尽きることなく、物資は乏しかったが心は豊かだった思い出話に花が咲いた。

(世話人 矢野恵之助 記)



銘酒と民謡で盛り上がり

昭和25年卒同期会

時折、秋雨のパラつくあいにくの9月19日、第39回同期会は協働大町ビルで、同期35人、賛助(逝去会員の伴侶)3人、同伴1人の合計39人が出席して開かれた。

席上、長年にわたり同期会の発展に大きく寄与された代表の大友康二君に菅原三朗君から感謝状並びに記念品を贈呈。続いて遠来の高堂知吉と栗原勝雄の両君による乾杯の音頭で祝宴に入った。祝酒は故鈴木松右衛門君のご長男である直樹様からご恵送いただいた銘酒「秀よし」で、満場からは「うまい!」「うめなァ!」の声が連発。アトラクションは、秋田県を代表する民謡歌手・佐々木常雄さんが主宰する「秋田民謡・五星会」の主要メンバーが数々の有名な民謡や踊りを披露してくれ、全員拍手喝采の盛り上がりとなった。(田中孝一 記)

